

会 議 記 錄

会議名称	第3回杉並区社会教育委員の会議
日 時	令和7年10月27日（月）午前10時03分～午前11時49分
場 所	東棟6階 教育委員会室
出席者	<p>委員 大橋、奥山、齊藤、宮田、天野、荻上、笹井 区側 生涯学習担当部長、生涯学習推進課長、中央図書館長、 社会教育センター所長、公民連携担当課長、管理係長、 社会教育推進担当係長（社会教育主事）</p>
配付資料	<p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> 1 第2回社会教育委員の会議記録（案） 2 令和7年度区民参加型予算事業の区民投票実施について 3 区民意向調査について <p><参考資料> 委員のみ配布</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 令和7年度版「杉並区の図書館～図書館要覧」 2 社会教育センター「すぎなみ みんなの大運動会2025」チラシ 3 郷土博物館だより「炉辺閑話No.73」 4 郷土博物館「昭和歌謡は杉並から生まれた テイチク東京吹込所語」チラシ 5 郷土博物館分館「片山春帆がみたすぎなみの農風景」チラシ 6 「第39回杉並郷土芸能大会」チラシ 7 全国社会教育委員連合「社教連会報No.97」
会議次第	<p>I 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 令和7年度区民参加型予算事業の区民投票実施について 2 杉並区青少年問題協議会委員の推薦について <p>II 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 検討課題の設定に向けて 今回のテーマ（案） <ul style="list-style-type: none"> ①子ども・若者の育ちを支える社会教育 ②活動の中で感じた価値観や考え方、覚えた違和感などを学びに変えていく社会教育（かたちになつていな学び） 2 愛称について <p>III その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 今後の予定 令和7年12月15日（月）午前10時00分～ 令和8年 2月 6日（金）午前10時00分～

(意見要旨)

- 議長 第3回目の会議をはじめます。部長からご挨拶をお願いいたします。
- 生涯学習担当部長 この会議は活発に意見を言ってくださっています。こうした会議を増やしていくかなければならないと、いつも思っています。本日も忌憚のないご意見をお願いいたします。
- 議長 資料の確認を事務局からお願いいたします。
- 社会教育推進担当係長 (社会教育主事) (配付資料の説明)
- 議長 令和7年度区民参加型予算事業の区民投票実施の報告について公民連携担当課長からお願いします。
- 公民連携担当課長 区民参加型予算とは、区が募集するテーマに基づき区民の皆さんから提案された事業のうち、次年度予算に反映するものを区民投票によって選定する取組です。今年度のテーマは「健康・ウェルネス」で、143件の提案の中から10事業を投票の対象とさせていただきました。投票を通じてまちが変わっていく学びにもつながります。ぜひ、よろしくお願ひいたします。
- また、「すぎなみボイス」と「すぎなみプラス」という区が設けるポータルサイトのチラシもお配りしております。ボイスは区の事業を情報共有して、ご意見やアイデアをいただく区政参加の取組の一つです。プラスは地域が主役になる活動を区がサポートする取組で、その中では、より気軽に皆さんに参加いただけるよう、アイデアや思いついたことを書いていただくページも作っています。それぞれ登録者数が540名、430名ぐらいで、プロジェクトの立ち上げやマッチング等を行っています。こちらもよろしくお願ひいたします。
- 議長 参加型予算は、今年度初めてですか？
- 生涯学習担当部長 昨年度まではモデル実施で、本格実施は今年度が初めてです。
- A委員 具体的な事例と庁内の役割分担、方向性も併せてご紹介ください。
- 公民連携担当課長 一点は銀行の空きスペースを地域の活動に有効活用してほしいというお話で、サイトでの募集に12の応募があり、面談の結果、子ども服を交換する取組が行われました。もう一点は「みんなのおうちたっぷ」という取組で、相続された建物の空きスペースでコミュニティースペースを作りたいと、クラウドファンディングの知識や内装などについてサポートを求めたところ、サイト上で二十数名の応募があり、その方たちとつながって今年4月下旬にオープンとなりました。地域課との連携は重要で、社会教育も親和性が非常に高いのでしっかりと連動し、地域の皆さんとコミュニケーションを取って進めています。
- 議長 社会教育は基本的には人づくりで、人づくりを通して地域をつくっていくから、すぎなみプラスのスキームで言うと、仕組みは担当がやり、調整は社会教育人材で連携する意味はあると思いました。次は青少年問題協議会委員の報告です。
- B委員 青少年問題協議会は学校と子育てに関する方の協議会で「子どもの居場所づくり基本方針」が一旦まとまったので、皆さんに話を聞く会議でした。子どものこと、居場所のことを多くの方が考えているということが有難いです

し、非常に納得感のあるご説明でした。

一方で、半数が子どものいない世帯になっているわけですから、どういうふうに子どものことに関わるか、子どもの権利について知るかは、別の事業で補完していくことがあるといいという感想を持ちました。それこそ社会教育の場でも、子どもとはどういうふうに関われるのかを学べる場があるといいと感じました。

○議長 次に、協議事項に移りたいと思います。

これまでいただいたご意見をふまえると、①子ども・若者の育ちを支える社会教育の在り方、②活動の中で感じた価値観や考え方、覚えた違和感などを学びに変えていく社会教育の在り方、の2つの方向にまとめられるのではないかと思います。前期は社会教育士についてやってきましたが、どちらも重なる部分があると思います。今期の検討課題を決めるため、少し絞った①か②の方向で自由にご意見いただければと思います。

○B委員 ②に非常に興味がありますが、制度的に動いていかないとフワッとした話になってしまいそうです。例えば困ったとき、違和感に出会ったときに相談できる連絡先一覧がまずは必要かもしれません。誰かのサポートがいるところだと思っています。①は分かりやすいし、やりやすい印象があります。

○A委員 資料にある区民意向調査の生涯学習については「したことがない」という回答が圧倒的に多いのですが、多分これはどの自治体も同じだと思います。生涯学習は行為を伴うものもあれば形になっていない学びもあります。

「生涯学習をしたことがありますか」と聞かれると、ほとんどの人が自覚できないのが面白さであり難しさなのだと改めて思いました。

まさに②の活動の中には、行為として意識していることもしていないこともあります。これも議論の糧になればと思います。

○議長 行政の調査なので形になったものでないと数量化できないからですが、私の言い方で、人間の生活を動かしている力はチマチマした話です。それを議論の俎上にのせるのは難しい問題ですが、専門職員がチマチマした問題については助言するというように、社会教育行政はそれを人の問題として取り上げてきました。

リスクリングも半分以上の人人がやりたがらないので、学びは本来ボランタリーなものなので、やる気にならないと身につかない。だからやる気にさせるにはどうしたらいいかというのがリスクリング業界の一番大きな悩みなのです。

○C委員 青少年委員として活動していますが、子どもたちの声を聞く機会がなく大人主導で活動を決めてしまっています。子どもたちの声を聴いて、子どもたちの違和感を生かす活動をやっていくだけでも自分たちのできることがあるのかなと思いました。

○D委員 ①は福祉分野とか学校教育分野との違いから社会教育でやることの意味合いが悩ましいのと、子ども・若者世代から離れてしまった人だけで話し合うことに、心の中ではいつもモヤモヤっとすることがあります。②は、違和感を学びにつなげていくというテーマはあまり見たことがないので、今の時代、チャレンジングで面白そうだと思いました。

○E委員 青少年委員の活動の中でボランティアを希望する中学生が増えて嬉し

く思っています。ボランティアをやるのが普通になって、お手伝いすることないですかと声をかけてくれるのは、とてもいい流れと感じています。

○F委員 新聞記事にアメリカでは技能を持った人たちの就職が伸びていてだいがくへの進学を控えるという価値観の転換が起きているという内容でした。日本でも未だにいい学校に行かせたら安泰みたいなことが言われますが、子どもがやりたいことを早いうちから応援して、学校教育も変えていかないといけないと考えています。

学習は与えられるものだと刷り込まれていたり、興味を持ったことをやろうとする芽を摘まれてしまっていたりする状況を変えて、興味を持って主体的にやっていることそのものが学びになっていくと、本当に私たちの未来につながっていく学習になるのではないかと思います。

○議長 区の教育ビジョンはそういう発想で、先駆的だと思っています。もう少しいろいろな場面で具体化していく必要があると思います。

○B委員 体験談で恐縮ですが、居場所づくりの運営をしていて気付くことを大事にしていますが、今も鮮明なのは私の知り合いが言った「もの学んで私は人を恨まずに生きられるようになった。私は救われた」という言葉です。他の人が言っていることを理解しながら、自分を保護していくプロセスは学びであり、自分で救うプロセスでもあると、なるほどと思った記憶があります。彼女は、自分の偏見、人間のバグみたいなものと、一人で闘っていました。学びというと、外側にあるみたいなイメージなので、自分が生きやすくなることにもう少し引き寄せられたらいいと思っています。ズルをするとかショートカットするということじゃなくて、重荷が減るとか、恨まずに済むそういう樂さが言えると、いろいろな世代が関わるると思いますし、興味も持ちやすいと思います。

○議長 それは気付きで、客観的な言語とか形にはなりづらい部分です。個人が対峙して見方を変える、克服していくということかと思いますが、学び合いとか、つながってみんなでやるという形になると別の工夫は必要かと思います。

○B委員 もう一点いいですか。資料の「みんなの大運動会」のようなことを地域でやるときに、一人で来ても安心ですと言つてあげられるようなことじやない、人間関係をほぐしづらいと思っています。

それから、障害がある人も参加するから多様というのではなくて、どんな人が集まつても既に多様なんだということが伝わりづらいと感じています。車椅子の人がいればダイバーシティみたいに使われる筋合いが車椅子の人にはないと思います。

なんとなく社会教育をふんわりと避けていませんか？一緒に地域のイベントを作ろうといのもいいですが、「良きものを良き」と言わないと勿体無いと思いました。

○A委員 今改めて②を見ながらですが、生涯学習とか人生100年時代の時点で、一生学び続けなければならない、成長するのがいいことだといった無言のプレッシャーがあるのが個人的には引っかかります。あえて脱成長とか脱課題解決とかいう言い方をするのがいいのか…。単純に無意識に学び、その壁を越えたいたと、今回このテーマを考える上で思っています。ただ、この場でどういう提

案をしていくことがその壁を越えることになるのか具体的になつてないの
で、希望を提案しただけですけど、皆さんの議論を聞きながら思ひました。

○議長 市木蓬生先生のネガティブ・ケイパビリティーという議論があります。

ネガティブなものを受け入れて、綱渡りみたいな精神状態でいるための能力が
とても大事というものです。前向きになってもらうようにするのが生涯教育だ
とずっと思っていましたが、ネガティブなことを受け入れて、精神的に不安定
でもそのままずっと生きていく、それを支えている力が大事だと言われると、
そうだなと思います。今までの生涯学習観とは全然違います。

教育的な立場ですぐ育成論になりますが、それは育成なんかできなくて、ど
ういう環境になれば育めるのだろうと思ひますが、今一番大事になつてあると
思います。“陽キャ”な人のための生涯学習だけであつてはいけないので、

“陰キャ”という言葉がいいか分からぬけれども、その人たちも穏やかに生
きていける能力はとても大事だと思います。

○C委員 そういうテーマでごく救われる人はたくさんいると思います。“陽
キャ”というわけではないけれど、学校の中心になつてゐる子たちがいつもボ
ランティアに参加して、グループだと一部で盛り上がって、一人で参加した子
は敷居が高くなってしまうような活動はよくないです。友達はあまりいないけ
ど何かやってみたいという子が一歩踏み出せるような環境をつくってあげる。
全ての人が“陽キャ”じゃないから、“陰キャ”でもネガティブでもいい、そ
れは本当に救われます。

私も「前向きに元気よく、生涯目標を持って頑張ろう」みたいなものばかりが
クローズアップされている感じがしています。ついていけない人たちもいるし、
やりたくてもできないとか悲観的になつて自分は駄目だと思つてしまいがちだか
ら、ありのままの自分でいいから、自分がマッチしたコミュニティがあるとい
なと思います。

○F委員 「どうしたら子どもが言うことを聞くようになりますか?」というご
相談が多いのですが、子どもがやっていることそのものを認めていきましょ
うと話して、ホッとされる親が多いのですが、親自身も勝手な思いで自分を縛
り、それに届かない自分にイライラして、結局子どもに当たつて自己嫌悪する
という負のスパイラルに陥っていることに、保護者が気付く。気付けた方から
楽になり、子育てが楽しくなり、親子関係もよくなつていきます。自らを縛つ
ているものを見つけるのが学びなのかもしれない、先程のお話を伺つてそう思
いました。

○議長 1970年にエドガー・フォールがユネスコの委員会で、「Learning to Be」
という未来の学習レポートを作りました。「Learning to Be」と「Learning to
have」を分けて書いていて、「Learning to have」は知識やスキルや資格を所有
するための学び。「Learning to Be」は存在、ありのままを認める自分になるた
めの学びということです。有名な「Learning to Be」はそういう意味を持っています。
日本は、それなりの繁栄を築いてきたので、近代化というものは目的を設定
します。そうすると「Learning to have」が99%です。haveすることが学びと思
い込んでしまう。その未来の学習という報告書は、1970年にこれからはありの
ままを認める学びが大事と言つても、未だに世界はそう変わっていない。

50年前にすごいことを言っていると思いますが。特に日本は、近代化の過程の中で「Learning to have」がすごく強調されて染み込んでいるところがあると思っています。

- B委員 気付ける人と気付けない人がいるというより、自分を気付きやすい状況にする方法を知っている人かどうかです。自分がこういう状況だと気付きやすいと分かってくるのが一番大きなことだと思っていて、そうした状況に自分を寄せていく癖がついた人は大体大丈夫です。「to be」のための「how」を知る状況になるので、むしろ頭で理解したほうが、この種のことは実は行動に移しやすいと思います。「to be」のための「how」をちゃんと言ってあげるほうが理解しやすいのかなと思いました。
- E委員 自分が本当にやりたいことができたときに根性があればできると思い、自分で決めたことはやりなさいと我が子には言っています。①の世代に②を提供できるようにできないか考えたいと思いました。
- 議長 今までの議論を聞いていくと①を②に潜り込ませるみたいな、②の中で特に子ども・若者にちょっと焦点を当てた形ではどうかと思いました。
- F委員 問題を放っておかないというのはいいと思いました。子育てで大事なことは何ですかと聞くと、人に迷惑をかけない子に育てたいという答えが一定数あります。一人で全部抱えて誰かに相談するのは、人に迷惑がかかると誤解されている方が非常に多い。「こんなことに困っているけど、どうしたらいい?」と子どもが相談したら、一緒に考えて解決に向かって進んでくれる、友達か、大人か、先生か分からぬですが、そういうことを体験できれば大人になっても、何か問題があったときに、誰かに相談してみようと思っていただけるけれど、いつも与えられ、命令され、やらされていると相談することに向かわない。声を上げない、困っていると言えない方のほうが圧倒的に多いですね。だから、何か心をほぐせるキャッチーな言葉があると、一步踏み出せるようになるかなと思いました。
- B委員 ハロウィンの時期に悪戯していいイベントを主催しました。ある程度逆張りしてあげる方が救われる子どもも多いと考えていました。
- 議長 ありがとうございました。もう一つの協議事項、社会教育委員会議の愛称についてお願ひしたいと思います。社会教育委員の会議は条例で、社会教育委員は法律で規定があるのですが、区民の方にもっと親しみを持っていただきたいということですが、前回B委員から出た「何かが生まれる、素敵なサムシング」もそうですよね、キャッチコピーとかスローガンとか説明文があると分かりやすいと思いました。
- B委員 ずっと使い続けるのですか? 1年ごとに変えていくのはダメですか?
- 議長 任期が2年なので、ある程度継続して、「すぎなみ大人塾」という事業に対して「大人の放課後」というキャッチコピーが付いているような感じですかね。
- E委員 「じやないほう教育委員会」。
- F委員 コンビで目立っていない方という意味でしたっけ?
- E委員 教育委員会というと、学校関連だと思う人が多分98%ぐらいだと思うので、そうじやない方という意味です。

- 議長 区民の多くの方が分からぬと思うので、それだと説明文的にしないといけないと思つたりします。
- A委員 例えは、ありきたりですが「杉並みんなの教育委員」とか。
- C委員 「歩み寄る教育委員」
- 議長 教育委員は別にいるわけですよね。
- B委員 「隣の社会教育委員」、「学ばなくともいいんかい」。
　　どういうところに書かれるかで大分違うように聞こえてしまうことは避けた方がいいですね。
- 議長 ワンフレーズにしてしまうと、また説明が必要になってきて分からなくなるので、「何かが生まれる素敵なサムシング…社会教育委員会議」のようなものがいいと思うのですが。
- 今日結論を出すわけではないので、思い付きでも仰ってください。
- B委員 「違和感歓迎」とか？
- C委員 「みんな主役」、「みんな違つていい社会教育委員会」。
- B委員 難しいです。アイティアを出すときにホワイトボードがないのが致命的です。あるときにやりませんか？
- 議長 今度ワークショップ形式でやりますか。
　　それでは、そろそろ閉会にしたいと思います。課長から挨拶をお願いします。
- 生涯学習推進課長 我々役所の職員はついつい法令や数目の話に行きがちですが、学ぶためのマインドとか、生きる力や考える力を掘り下げるようなお話をいただき、刺激を受けております。本日はありがとうございました。